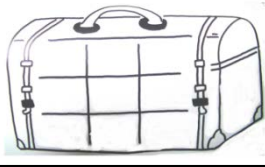


タイトル	「人に優しく」 国際理解編 (総合的な学習の時間)
実践者/団体名	幸田 隆
実施日・期間	2013年5月～10月の間に15時間
主な実施場所	豊田市立若林東小学校
参加者及び人数	第6学年の児童103名
目標・ねらい	<p>「地球の課題を知り、自分ができることをしよう」</p> <p>私は、グローバル教育の目的を、自分・相手・社会と主体的にかかわりながら、多文化共生の幸せな未来をつくる力を育てることだと考えている。総合的な学習の時間においても、この目的を意識した、授業作りを心がけている。</p>
<p>具体的な 取り組み内容及び 工夫・配慮した点等</p>  <p>写真1 オリエンテーション</p>  <p>写真2 布チョッキン</p>  <p>写真3 平和のキルト作り</p>	<p>今年度、第6学年の総合的な学習の時間のテーマを「人に優しく」とした。前期に、国際理解、後期に福祉を取り上げ、年間を通して、このテーマを実践していくこととした。</p> <p>「人に優しく」では、子どもたちが、地球の課題や福祉の課題を知り、自分ができることを考え、行動していく学習を計画した。国際理解編では、15時間をかけて、以下の6つの参加型のプログラムを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界一大きな授業 (5月, 3時間)【地球の課題: 教育・貧困・紛争】 <ul style="list-style-type: none"> 世界の就学率、就学できない理由、世界の識字率、読み書きができない不便さ、世界の教育費と軍事費の比較、女性の教育問題、行動する子どもたち(マララ・ユサフザイ) 2. 世界がもし100人の村だったらワークショップ (6月, 1時間)【地球の課題: 人口・食料・水・エネルギー・格差・紛争・多文化共生】 <ul style="list-style-type: none"> 世界のあいさつ、世界の人口、食料の不平等な分配 3. 難民ワークショップ (6月, 2時間)【地球の課題: 難民・紛争・貧困】 <ul style="list-style-type: none"> 難民の定義、世界の難民数、シリア難民、日本が受け入れた難民、難民が生まれる原因 4. カンボジアの未来 (7月, 3時間)【地球の課題: 紛争・難民・貧困・教育・雇用】 <ul style="list-style-type: none"> カンボジアの子どもたちの大切なもの、カンボジア内戦、地雷問題、貧困問題、NGO 幼い難民を考える会の活動、布チョッキン・プログラム 5. 平和教育ルワンダ (9月, 3時間)【地球の課題: 差別・紛争・難民・貧困・教育・雇用・多文化共生】 <ul style="list-style-type: none"> ルワンダ紹介、ルワンダの悲劇、植民地支配、民族差別、ヘイトスピーチ、紛争が繰り返される理由、ルワンダの平和への努力、日本のルワンダ支援 6. 平和教育フィリピン (9～10月, 3時間)【地球の課題: 差別・紛争・難民・教育・多文化共生】 <ul style="list-style-type: none"> フィリピン紹介、ミンダナオ紛争、植民地支配、宗教差別から生じた土地問題、紛争が繰り返される理由、平和の努力、NGO アジア日本相互交流センターの活動、平和のキルト作り <p>「人に優しく」では、子どもたちは、グローバル社会の一員として、国際協力活動を体験したり、地域社会の一員として、高齢者福祉施設や子ども園などでのボランティア活動を体験したりしていく。特に、国際理解編では、NGOやJICAと連携しながら、授業を作るように心がけた。児童が実際に体験した国際協力活動としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「安倍総理へ手紙を書こう」(政策提言)～ 世界一大きな授業 (教育協力NGOネットワーク JNNE) ○「布チョッキン・プログラム: カンボジアの子どもたちにオモチャを！」～ カンボジアの未来 (NGO 幼い難民を考える会) ○「日本のルワンダ支援を知ろう」～ 平和教育ルワンダ (JICA国際協力レポーター2013としてのルワンダ視察体験から作成) ○「平和のキルト作り: フィリピンに届けよう。平和のメッセージ！」～ 平和教育フィリピン (NGO アジア日本相互交流センター ICAN) <p>布チョッキンや平和のキルト作りなどの体験を行う前には、相手国へ興味をもったり、その国の課題や、国際協力活動の意義を十分理解したりできるような授業を行った。</p> <p>また、「人に優しく」では、社会的弱者の立場や気持ちを理解できるような体験型の活動を用</p>

戦争だ！ 逃げる！ 何を持っていく？



持っていくものを書こう！



難民体験「難民のかばん」

みんなと関係があると思いますか？

約70年前 日本も戦争犠牲者：約310万人

スクール(教室内)カーストって何？

スクールカースト = 教室内身分

- 人気のランキング
- 1軍・2軍・3軍など
- いじめとのつながり



教材・資料



意した。国際理解と福祉の学習がつながるように心がけた。

<国際理解編>

- 非識字者体験「文字が読めないということ」 ～ 世界一大きな授業
- 貧富の差体験「世界の富は誰がもっているの」
～ 世界がもし100人の村だったらワークショップ
- 難民体験「難民のかばん」 ～ 難民ワークショップ

<福祉編>

- 高齢者体験 ○ 車いす体験 ○ 妊婦体験

さらに、国際理解編では、ある社会集団が、不当な差別を受けたことで紛争に発展するケース、紛争が引き金となって起こる難民問題、紛争を予防したり解決したりする平和への努力などに関して、ルワンダとフィリピンの例を使って、平和教育を展開した。この際、工夫したこととしては、地球の課題と、子どもたちの生活とのつながりを考えながら授業を作っていくように努めた。例えば、

- ・植民地支配の階層制度と、現代の学校の「スクール・カースト」
- ・民族差別/宗教差別と、いじめの問題
- ・紛争の原因と、けんかの原因
- ・紛争や対立が続く理由と、仲直りできない理由
- ・ルワンダのヘイトスピーチと、日本のヘイトスピーチ

とのつながりに気づくことができるような教材作りを行った。子どもたちが当事者意識をもって、地球の課題の解決に向けて考え行動していけるように、「もしも、自分が支配者階級/被害者/大統領だったら、どんな気持ち？ どうする？」という発問も頻繁に用いた。

その他、子どもたちの興味を引くように工夫をした。ビデオ、写真、絵など視覚に訴える教材を多用した。テレビドラマの内容とも関連させて授業をした。例えば、「35歳の高校生」というドラマでテーマとなった、「スクール・カースト」の問題を取り上げたり、「半沢直樹」のドラマの有名なセリフ「やられたら、やり返す。倍返しだ！」を「紛争が終わらない原因」を考えるきっかけとしたりした。ACジャパンのCM「おもいやり算」(+ 助け合う、- 引き受ける、× 声をかける、÷ 分け合う)は、国際理解と福祉を結びつける、多文化共生へ向けての大切な行動として提示した。

最後に、視点のバランスを配慮した授業作りを心がけた。ポジティブ、ネガティブ両方の視点をバランスよく持ち、その両面から物事の全体像を把握できるようにした。例えば、ルワンダやフィリピンにおける紛争に関する授業を行う前に、子どもたちが、両国のよさや魅力を実感できるように、観光用プロモーションビデオなどを使って国の紹介を1時間ずつかけて行った。また、途上国の人々は、かわいそうな人で助けてあげなければいけないというような上から目線で、一方通行の同情や義務感からの国際協力ではなく、日本人と途上国の人々との相互依存関係に目を向け、支え支えられる国際協力を伝えるようにした。

1. 世界一大きな授業

- パワーポイント「世界一大きな授業 2013」(29枚),
教育協力NGOネットワーク JNNE, <http://www.jnne.org/gce2013/>
- ビデオクリップ「銃撃されたマララさん、初めての肉声」(1分12秒),
http://www.youtube.com/watch?v=o3_vZPXgw8E

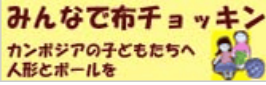
2. 世界がもし100人の村だったらワークショップ

- パワーポイント自作教材
・「世界がもし100人の村だったら」(21枚)
- 資料
・新・ワークショップ版 世界がもし100人の村
だったら, 開発教育協会, 2008

3. 難民ワークショップ

- 「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻」, JICA 中部, 2006
- パワーポイント自作教材
・「難民について知ろう」(34枚)
- ビデオ「シリア、マリ、南スーダンの紛争と UNHCR の活動 2012」(5分58秒), UNHCR 東京, <http://www.youtube.com/watch?v=6zZs.j6pX8xg>
- ビデオ「シリア緊急支援にご協力を」(36秒), 国連 UNHCR 協会





<http://www.youtube.com/watch?v=0vQsGyRu9LU>

- ビデオ「てとてプロジェクト」(3分12秒), 国連 UNHCR 協会, <http://www.youtube.com/watch?v=wW4y4c2YPks>

4. カンボジアの未来

- パワーポイント自作教材
- ・「カンボジアの未来」(50枚)
- ビデオ「カンボジア支援： みんなで布チョッキン」(2分26秒), **NGO 幼い難民を考える会**, <http://www.youtube.com/watch?v=5wSfdgxTfgg>
- 外部講師： **NGO 幼い難民を考える会**あいちの5名のボランティアの方々



5. 平和教育ルワンダ

- パワーポイント自作教材 (写真の多くは **JICA 国際協力 レポーター2013**ルワンダ視察で撮影)
- ・「平和教育ルワンダ1 ルワンダ紹介」(36枚)
- ・「平和教育ルワンダ2 ルワンダの悲劇」(30枚)
- ・「平和教育ルワンダ3 平和への努力」(50枚)
- ビデオクリップ (**JICA 国際協力レポーター2013**・ルワンダ視察で撮影)
- ・「ルワンダにおける日本の国際協力の現場」(5分)
- ビデオ「ルワンダ紹介： Rwanda」(8分51秒), Mammoth Media KC <http://www.youtube.com/watch?v=6aiQJfi1XNk>



- CM「やさしいでしょ、思いやり算」(32秒), ACジャパン, <http://www.youtube.com/watch?v=mymmZikqv4c>

6. 平和教育フィリピン

- パワーポイント自作教材
- ・平和教育フィリピン 平和への道 (94枚)
- ビデオ「フィリピン紹介： It's More Fun in the Philippines」(2分42秒), DOT Official AVP, <http://www.youtube.com/watch?v=ADNgEHFDYzo>
- ビデオ「平和のキルト紹介」(3分9秒), **NGO アジア日本相互交流センター ICAN**



成果



写真4 カンボジアへのメッセージ作り



写真5 平和のキルトの校内掲示 (フィリピンへ送る前)

○ 実践による社会貢献

- ・「安倍総理へ手紙」が、JNNEにより、総理へ発信。(世界一大きな授業) 子どもたちの感想：<http://www.jnne.org/gce2013/report-school.html#school-wakahigashi>
- ・オモチャの型紙の布と、カンボジアの子どもたちへのメッセージが、幼い難民を考える会により、カンボジアへ発送。(布チョッキン)
- ・「平和のキルト」が、ICANにより、ミンダナオへ発送予定。(平和のキルト)

○ 校内の委員会やPTAが行う社会貢献活動への意欲的な参加

- ・ユニセフや赤い羽根などの6年生の募金額、約4倍増
- ・エコキャップ運動、アルミ缶回収、ベルマーク活動への参加率、約2倍増

○ 国際協力の大切さを保護者へ発信

- ・子どもたちが授業で学んだことを家庭で話した
- ・「世界がもし100人の村だったらワークショップ」を授業参観とした

○ 意識・態度変容

- ・国際協力への意欲の高まり ・日々の平和や学校に行けることへの感謝の気持ちの高まり
- ・人の役に立つ仕事につきたいという意欲の高まり ・水の節約、残菜ゼロへ意欲の高まり
- ・まずは身近な人に思いやりの心で接することが国際協力につながっているという気づき
- ・地球の課題への関心の高まり ・ルワンダやフィリピンなど外国への興味の高まり
- ・国際交流、外国語の授業への興味の高まり (修学旅行では、外国の人に英語でインタビューをしようというミッションにはほぼ全員が意欲的に取り組んだ)

発展

- 後期の「人に優しく」福祉編で学ぶ「社会的弱者の方への理解や思いやりは地球の課題解決につながっている」ことを強調。広い視点で、長期間、継続的にグローバル教育を展開
- 他教科・領域の学習につなげる。例えば、国語「持続可能な社会への取り組みについて調べよう」、社会科「新しい日本、平和な日本へ」、道徳「ニックブイチチのポジティブ人生」
- 学芸会で、「村一番の桜の木」という反戦をテーマとした劇を演じ、全校と地域の方々に平和の大切さを伝える。

参考資料（子どもたちの感想とパワーポイント教材）

1. 世界一大きな授業（教育協力NGOネットワーク JNNEとの連携）

- ・勉強をしたいのに、できない人がいるなんて、すごくびっくり。
- ・世界にこんなに困っている人がいるとは思わなかった。貧しい人を安心させて、子どもを学校に行けるようにさせたい。
- ・くやしくなってきた。お金がなくて苦しんでいる人のことを思わずに、ごはんを残したり、やりたいことをしたり、せこい！ぼくは募金をして、お金がない国を日本と平等な国にしたい。
- ・1か月に募金を4回する。世界を救いたい。
- ・ちょっとのことが世界を救うことになるので、ぼくも、ちょっとのことをあきらめずに行動していきたい。
- ・国を守ることも大事だけど、子どもの教育費にもっとお金をかけてほしい。
- ・自分のことよりも、世界のみんなを優先させるマララさんはすごい。ぼくも勇気ももらいたい。
- ・私も世界にも役立つ人になれればいいな。
- ・安倍総理へ、まず一回でもいいので貧しい国に行ってもらいたい。貧しい国の人の気持ちがわかってほしいから。

アフリカでは

読み書きができないと、どんなことが困るのでしょうか？

アフリカでは

リボンの長さで比べよう

教育費 ゲーム 軍事費

マララさんのストーリー

- ・パキスタンの女の子
- ・11歳
- ・戦争で学校が破壊され、女の子が学校に行けないことをブログで世界に伝える
- ・パキスタン政府から「勇気ある少女」として表彰

安倍総理に政策提言してみよう

●わたしの提案
世界中の子どもが学校に通えるようになるために安倍総理にお願いしたいことは...

●「世界一大きな授業」をやって、わたしたちが思ったこと・考えたこと・感じたこと

2. 世界がもし100人の村だったらワークショップ

「貧富の差体験」：ジュースをお金と考え、グループに不平等に分配し、貧富の差を作り出すシミュレーション

- ・一番お金持ちの人たちは自分たちだけ楽しくしていて、ずるくて、むかついた。ぼくがお金持ちになったら、お金がない人にも分けてあげたい。
- ・貧富の差では、お金のせいで差別などをしてしまうので、お金なんかいらない。
- ・人口が少ないところにお金が多くて人口が多いところにお金が少ないなんて、ありえない。この現実を大人に話して、もっと世界の人たちに知ってほしい。
- ・人口がとんでも増えていて、食料や水の取り合いが起きて戦争になる。お金持ちがひとりじめするからけんかになる。分け合うのが一番の解決策。あと、思いやりと協力。
- ・日本の人は他の国の人よりもお金持ち。私がもしお金持ちだったら、絶対に貧乏な人にお金を分ける。そうしないと私、ざんこくだと思ってしまうから。

大陸ごとに分かれてみよう！

世界人口が爆発するとどんな問題が起きる？

人口爆発 → 食料不足、エネルギー資源不足

地球の課題

世界の富は誰が持っているの？

どんな気持ちになった？

カードの人数割合：世界の富

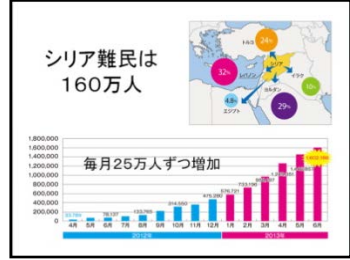
① △ 豊かな人(20%)	83%
② □ 中間(60%)	16%
③ ○ 貧しい人(20%)	1%

3. 難民ワークショップ

- ・難民ゼロが平和。地球の一人一人が協力しなくちゃ。
- ・国が差別して難民ができた。まず、差別しないで仲良くすれば、多くの人が苦しみ、悲しむことなく生きていけた。満足を水で飲んだり、食べることもできないなんて、とてもかわいそう。
- ・なぜ、人種、宗教、国籍がちがって、暴力をふるわれて、自分の国から逃げなさいいけないか疑問。差別するなんてひどい。苦しい思いをしている難民の人たちに笑顔あげたい。
- ・難民の人たちは学校で起きるいじめみたいなものをされているみたいで、差別されるのはかわいそう。
- ・私たちは毎日平和で幸せだな。日本も戦争をやっていたけど、やらない方がいいと気づいたのでちがう国も気づいてほしい。
- ・今もたくさん場所で戦争をして、たくさんの難民が出ているので戦争をやめてほしい。絶対に争いがなく、みんなが笑顔になるようにしたい。
- ・ぼくたちは学校や食料が十分あるのに、難民の人たちは十分な生活をしていない。同じ人間なのに不平等がありすぎる。いじめと同じで、不平等なことはやっていいのでしょうか？
- ・エコキャップや、募金をやって、幼い難民を救ってあげて、安心できる生活をあげたい。

何の写真だろう？

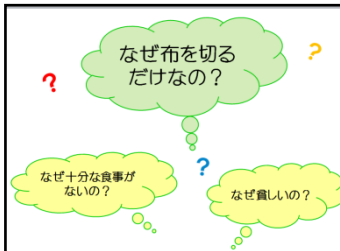
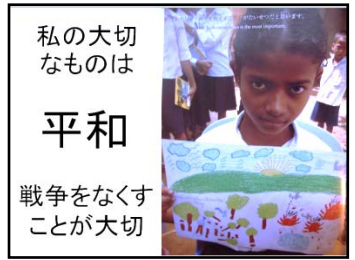
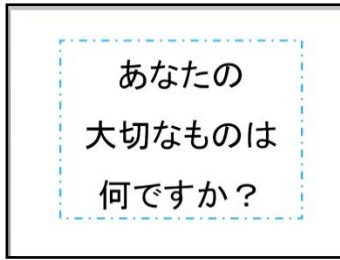
難民(レフジュー)とは、人種、宗教、国籍、政治的な意見がちがうという理由で、暴力をふるわれて、自分の国から逃げる人



難民と日本とのつながりは？

4. カンボジアの未来（幼い難民を考える会との連携）

- 地雷というおそろしいものを地球からなくして、みんなが安心して暮らせるようにしてあげたい。
- カンボジアの子どもたちにオモチャを作るためのものを切っただけでよかったし、カンボジアの大人への仕事をつくってあげてよかった。とっても楽しかった。自分も布チョコキンの人たちみたいなグループに入って、国際協力をして、世界の人を助けたり、現地に行ってボランティア活動を手伝ったりして、役に立つことをしたい。楽しみながらやった方が、やりがいがある。
- 人のために何かをするのはすごく気持ちのいいことだとわかった。これだけ気持ちがよくなると次もやりたくなってくる。布きれ1枚でも渡せば、カンボジアの子どもたちをすごく笑顔にさせられると思うと、すごく、すがすがしい気持ち。
- ぼくは51枚もの布を切った。世界のために行動して、心が気持ちよくなっていった。
- ただ布を切るだけでカンボジアでは大切なお仕事になるので、やってよかった。貴重なお仕事をつくったのは私たちなのでいいことをやったと思う。
- ただ布を切るだけでも、子どもだけでなく、大人も救い、国も救うことができるとわかり、ホッとした。これからこのような活動を続けて、世界中の困っている人を助けたい。
- 今の人たちが変われば次生まれてくる人も変わるから、今を大切にしたい。



5. 平和教育ルワンダ（JICA国際協力レポーター2013）

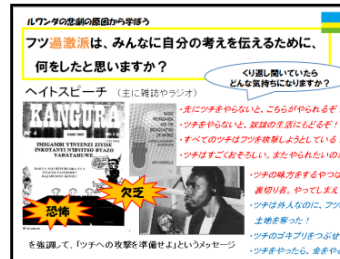
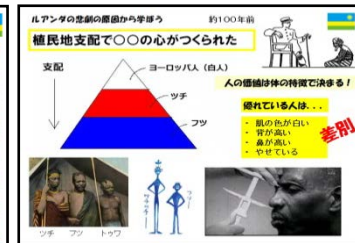
① ルワンダ紹介

- ルワンダは自然がめっちゃ豊かで、みんなすごいスマイルで、楽しそう。食べものが思った以上においしいそう。こんな楽しそうなルワンダに一回でもいいから行ってみたい。
- 知らないところにこんなおもしろい国があると知れてよかった。
- 思ったよりも、建物が建っていたり、車やバイクが走っていてイメージとちがった。他の国にも興味をわいてきた。食べものもヤギの肉やバナナのおかずなど、日本ではありえないものもあり、少し食べてみたいと思った。ゴリラツアーに行きたい。
- アフリカは砂ばくとかが多い地方だと思っていたけど、自然が豊かで、みんな笑顔のところ。ポジティブですごい。
- ルワンダの人は協力しながら、伝統を守って、明るく生活するのがとてもすごかった。他の国は、どういう生活や文化、伝統があるのか興味をもった。これからいろいろと調べたい。
- 貧しい暮らしをしていると思っていたけど、みんな元気でユニークで明るくていいな。ぼくもアフリカで暮らしてみたい。

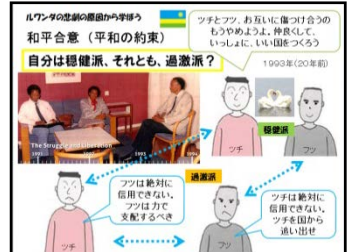


② ルワンダの悲劇

- 人の見た目だけで上と下を決めるのは、下の人がとてもかわいそうで、いじめと同じ。見た目などで、ずっと国のリーダーなんて、おかしすぎ。戦争になるのも当然。そんな世界に反対。
- 位をつけず、みんな同じレベルの位にして、みんな仲良く暮らせばよかった。自分も位をつけるのはやめようと思う。
- ヘイトスピーチとかやっているひまがあったら、協力に関係のあることをすれば平和な世の中になる！
- 社会の授業で、自分が家康なら、豊臣家を滅ぼすかという話し合いで、自分は豊臣はいつ裏切られるかわからないので、島流しにするという意見だったけど、この授業で、相手を信じれない人は戦争を続け苦しむ、信じる人は仲良くなり、さらなる発展につながると思った。信じるか、信じないかのちがいに気づいた。世界の人に、このことをわかってもらい、平和な社会にしたい。
- 同じ人なんだから、平等に接して、何でも暴力や戦争や力づくで解決しないで、話し合ったらいい。

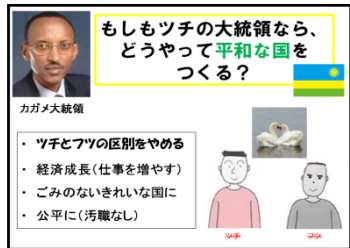
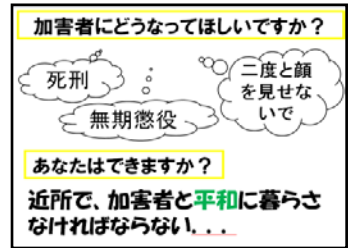
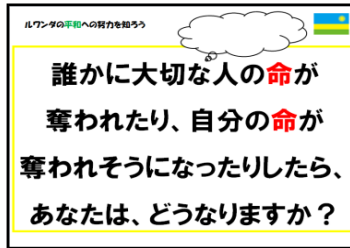


- ・差別で反乱が起きたり、差別でいじめになって、やっぱりダメ。いじめを許さないことは絶対に守った方がいい。
- ・ちがいを認めて、仲良くすれば戦争はなくなる。
- ・地球の課題は人種差別。ぼくも、人とかかわり関係を一度見直してみたい。
- ・戦いをやると、たくさんの命が奪われる。戦わないほうがいい。命を大切にしていきたい。



③ 平和への努力

- ・地球の課題は戦争をしないこと。私の大切な人の命が奪われても、自分と同じ気持ちを持つ人が増えないように戦いをやめる。
- ・復しゅうの心で戦争のくり返しになってしまう。どこかで自分の心をコントロールして、がまんしなければ戦争は一生続く。
- ・私も大事な人を殺されたら、「やられたらやり返す。倍返しだ」と思ってたけど、「やり返したら、やられ返される。マイナス倍返しだ」を心にとめて生活していきたい。
- ・「やられたら、やりかえす」で、悪いことをやりかえすよりも良いことをやり返せば、いつかまた自分にも返ってくる。だから、自分にできることは、よいことをしてあげることだと思う。
- ・日本はいろんな支援をされていて、優しい国だと改めて知った。
- ・ルワンダに行って、いろいろと助けてる日本人はとてすごい。技術を教えて仕事を与えることによって戦争もなくなるし、自分でかせいだお金でくらしを楽にするのはとても気分がいいと思う。みんなで助け合って、みんなで協力できる国になってほしい。
- ・日本が支援などを協力することで、ルワンダとの信頼を深められていい。ぼくも、ルワンダなどに行って、たくさん信頼されるようになりたい。
- ・今までルワンダは苦しい思いをしてたのに、みんな笑顔だったので前向きだと感じた。私も前向きになりたい。
- ・これからもルワンダという国を忘れないように、携帯やネットで調べたり、新聞も見て最新の情報を知ろうと思う。家族や友達にもこのことを知っておいてもらいたい。



6. 平和教育フィリピン (ICANとの連携)

- ・宗教のちがいで、人を差別することはいけないと思う。「みんなちがって、みんないい」の心を忘れずに、差別をなくし、みんなで平和になってほしい。
- ・お互いに分け合ったり、信用すれば戦争が起きないと思った。
- ・地球の課題は、信頼し合うこと。そうすれば仲直りできる。
- ・日本の和平努力があって、平和になりつつあるフィリピンがあると思う、日本をほこりに思う。
- ・この(平和の)キルトを見て、ギザギザしていた心が、ふわふわ優しい心になればいいな。
- ・笑顔で、平和にくらしてほしいって、すごく心をこめて作ったので、キルトができあがったときの達成感はずよかった。
- ・世界の役に立ちたい。まずクラスの役に立つことをしたい。
- ・人に優しくすることはすごく大切なんだと思った。自分もいい気持ちになれるし、相手も気持ちよくなるので、仲良くできるから。自分ができることは協力をして、人に優しくしてあげよう。

